adult only
R-18
That Time I Got Reincarnated as a Slime FANBOOK
おっぱいミルクから始まる
Presented by そぼろ丼
Oppai milk karahajimaru
Bouryu sama to
Maou sama no
kazokukeikaku
暴風竜さまと
ヴェルドラ
×
リムル♀
魔王さまの
家族計画

この本は2024年頒布の
「おっぱいミルクから始まる暴風竜さまと魔王さまの保健体育」の後編となります。
ストーリーをお楽しみになりたい方は
できれば前編から読むことをおすすめしております。

勝手に当て馬にされ痴話喧嘩の発端になったと知る由もないカリスさん

前編
《保健体育》
のあらすじ

じゃあ
一度でいいから
母乳を飲んで
みたいのだが！

できれば
乳房からが
いいぞ！

シリタガリな
ヴェルドラさんの
突然の思い付きのため
おっぱいを出すしか
なくなったリムル様
（※エロ本なので）

なんとか授乳を遂行するも
なぜか実装されていた
暴風竜さんの暴風竜が覚醒

コレを
挿入れたいから
女体化せよ!!

教えなかったら…

キャあぁぁぁぁ

がばぁ

クッ
ハッハッハッ

!?

ヴェルドラが名付けしたのは
俺以外だとカリスしかいないし…

考えてみれば
いつの間にか

さらなる
保健体育（）を強請られ
拒絶するリムル様

この魔王様は
恋愛雑魚のため
ヴェルドラさんは
カリスのことが好きだと
思い込んでいたのだ

ヴェルドラが誰を好きでも
誰とヤッても
俺が口出しする筋合いなんて
ないけど

ないけど…
それは……っ

だが結局リムル様は
道理を説くことも
自分の気持ちに素直になることも
できないまま嫉妬に負け
最後まで保健体育してしまう

ビクッ

あ

はぁッ
だ…っ

は…
はぁ…あ

ガクッ

うそだろ…

は…ぁ

ガク

ヴェルドラのちんこで
いっちゃったのか…？

俺…

ドクッ

自己嫌悪で
グチャグチャに
なるリムル様

なんで…っ
腰に力が…っ

あ…っ

ガクッ

俺がちゃんと
止めてやらないと
いけなかったのに

大切な
借り物の姿を汚して

ぷぴぷぴ…

二人の気持ちの
答え合わせは
この後編で

ひ…っ
ブ…
ひっく
ずっ

なぁリムル どうしたのだ

……っ

……っく

リムル？ やっぱり胎が 苦しいのか？

ブ…

くぅ

どうしたのだ リムルよ

そっ

ビクッ

ぐぅ

泣くな

ずっ

ふっ

くぅ

泣くな

なっ

ちゅ

ちゅ

くぅ!!っ

ずーん

リムルが泣いておるのにあの智慧之王がなんも言ってこないところを見ると

肯

もげろ

これは意趣返しだな…我に自分で考えろということか

すまんかったリムル気持ちよくなかったか？

最後噛んだのがダメだったか？

すまぬ出ると思ったらついやってしまったのだ

もうしないからっなっ

もしやリムルも突っ込む方をやりたかったのか!?

それは…その気が付かないですまぬ

リムルの穴が我を欲しがってると思って…挿れることしか考えられなんだ

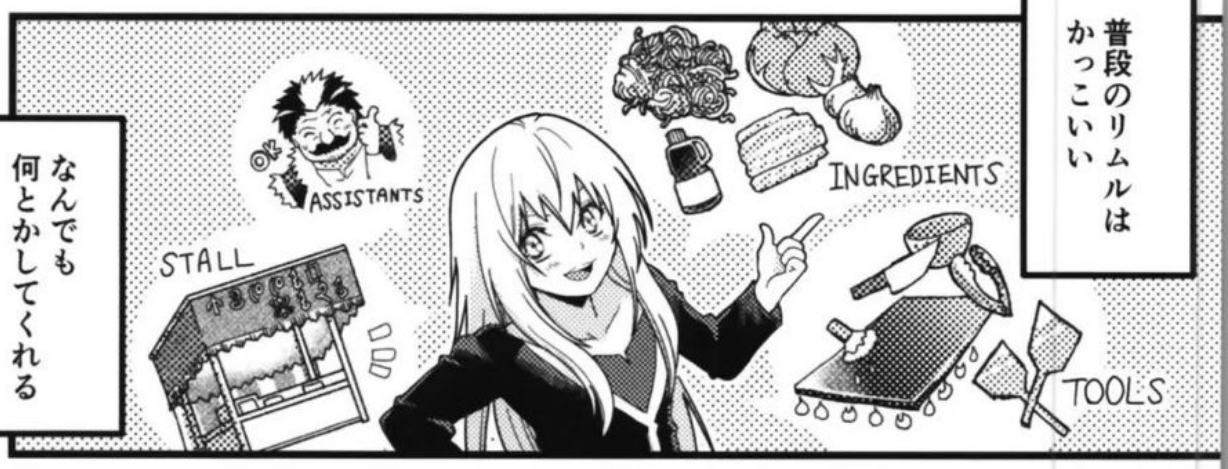
そうだ腹は減らんか？何か食べるか？飲むものの方がよいか？持ってくるか？

いらっいらっ

あ……
ぼふっ
そうだリムルの心はいまだ人のまま
人間なのだ
自分以外の誰かの心を慮ろうとしたことなどなかったな
しかもリムルの感情は複雑すぎて表層からだけではわからん……
叱られるでもなくそのようにリムルに泣かれると
我はどうしたらいいのかわからぬ
我が悪かったなら謝るから
我のことが……
嫌いになったのか!?
嫌だっ
いやだぞリムルそんな筈は……っ
ぎゅ……っ
信じぬ
頼むっ叱っていいからこちらを向けッリムル!!!!
ばっ

ひっ
ひるな…
よお…っ
ぐぅっ
ぐぅっ
ぐぅっ
何故だ……っ

普段のリムルは
かっこいい



なんでも
何とかしてくれる

いつもいつも
リムルなら

頼りになる
リムルが

面倒見がよいが
抜け目ない
あのリムルが
我に何とかしてほしいと
強請るような顔で
貫くたび
こぼれるか細い声で
っう
あんなにも——
ぐっ
ぐっ
ぐっ
何故だ…っ
ギリ…
こんなことを
我に教えておいて
何故だっ!!

リムルといると
初めてのことばかりだ

嫌だッ

想像すら
できなかった程に

リムルと出会って

世界が広がった

なに…言って
ギュッ…っ
我を嫌いになるな……!!
バカッ
レイ
はなせっバカッ
いやだっ
このバカッカリスは!?
カリスはどうすんだよ!?

バッ

は？

え？

なんで今カリスが出てくるのだ!?

どういうことだ!?

え

え？

いやだってヴェルドラはカリスが…

ちゃんと説明せんかリムルッ

カリスが本命だと思ってたと説明しました

カリスを復活させた時
女体にしたから
我がカリスを好いていると
思っただと?!

わー

だって男が
おっぱいデカいのが
いいと思うのは
当たり前だろ!!!

…いや?
実際それほど
でも…

お?
戦争か??

ずもも…

大きいことこそ
絶対正義

そ…
それは確かに一つの
真理やもしれんが…

圧が強い…

本当にリムルは
おっぱいが好きだな

だから我も興味を
持ったのだが……

そこまで誤解を
こじらす前に何故一言
我に訊かんかったのだ!?

ぷんすこ

ごっ

いつも皆に
ホウレンソウ
ホウレンソウ
言っとるだろうに

報・連・相

挨拶と確認は
シャカイジンの
基本なのであろう!?

ドス
ドス
ドス
ドス
ウッ
ブブッ

そうだよ
もう殺せよぉ
おおおおおお

ピェェェン

どうぞ…

水たまりになった…

切腹とか介錯するのは
シャカイジンではなく
サムライではないのか?

ダダダダ

ぎぃぃぃ

フワ…
……
……色々ごめんヴェルドラ
うむっ
まあ要するにだ
ぐーっ
ひゃっ

カリスに妬いておったのだな？

クァーッハッハッハッ

ばっ

リムル貴様だって万単位で名付けとるくせに

ぐぎぎぎ…

ブァブァブッ

だだって

全然違うじゃん…

意味もわからず名付けまくった俺とはさ…

ヴェルドラが俺以外に名付けたのは…

そうか
そうか

ポカ

ポカ

話しただろっ
離せよッッ!!

いやだ♡

ハッハッ
ハッハッ
ハッ

クーン

ぴっ

ぴちっ

ぷぷぷっ

むおぉぉ
おおぉぉ

ガッちり

いや
まだだぞ
リムル

我にも話して
おかねばならぬ
事がある

昼前に
赤子を抱かせてもらって
楽しそうにしておった
だろう

命を繋ぐことを尊ぶのは限りある生命の本能に根ざした性だ

人の心のままなら子を望むのも当然のことだとは思っておる

リムルのためなら業も共に背負うし

迂闊に迷惑をかけぬよう自重するよう心がけて我はここにおるが

だが…子だけは

それだけは我は与えてやれぬ

理には我が兄すら逆らえず未だ戻らぬ

リムルには我を復元する究極能力「暴風之王」があるが

リムルを復元する能力を我は持っておらぬ

だからもし子を成したことが原因でリムルを喪うのは絶対にいやなのだ

だからせめて性交だけでもと考えたのだが…

ヴェルドラ!!

だら

だら

だら

バレてヤ!!

だと…

リムルいまだに性交にこだわっとるだろう?

つーことは
え？
母乳とか穴だとか
言い出したのは…

まぁ
方便だ

クハハ！

だって
リムルとせっくすできるか
確認したいから
触りたいって言っても
怒るだろう？

それは
そうね

純粋に興味が
あったのも
本当だがな

できるような
気はしていたが
本当に発情できるかは
わからんかった

この知りたがりの
邪竜めえ…っ

ディアブロあたりを
女体化させたのを
連れてくるとか

母乳を搾乳したのを
持ってこられたら
撤退しとったしな

その手があったか
という顔をしとる

!!!

ともかく結果は
リムルも身をもって
知っての通りだ
容易かったぞ

ぴゃ…っ

ビクッ

あ…っ

ふに

ふにっ

ちょっ

リムルの言う
「大きいことは良いこと」も
真理だとは感じるのだがな

我が得た真理は
おっぱいの大小よりも
誰についているのかが
重要だということだ

…っ

ぺしっ

我が兄のように
己が滅びの入口に
立っているのかもしれないと
気が付いても

リムルと
まぐわって

それが
忌まわしいとも
恐ろしいとも
思わなんだ

だが我は生きて
リムルと魔国で
ずっと楽しく
暮らしたい

だからこの先
リムルが子を望んでも
我はそれを与えてやれぬ

すまない

いきなり勝手なことばっかり言いやがって…
そもそも子供欲しいなんて一度も言ったことないだろ
もし…欲しくなったら他の人ととか…やりようはあるじゃん
この男
この竜種たる我が自ら魂に同格を刻んだのはリムルしかおらんのだぞ!?
そのリムルが子をなすならそれはこの世で我の子以外にあり得ぬであろうが!!
まさに竜種
だっ
そ…っ
そういうっ?!もん……??
なの??か!?!?
全くッ我竜種ぞ!?
その我を今さっきまで盛った犬か猿かの如くふるまわせたのはリムル貴様なのだぞ!!
リムルは自覚が足りんのだっ

だいたい我にリムルだけとしかせっくすしないって約束させておいてなんだ!?!?

浮気なんて許さんからな我怒るぞ!!!

ならばリムルも我とだけなのが道理であろうが!!

ぱく

ぱく

なんだよ

「俺がこだわってるから」だとか

「自分の子以外ありえない」だとか

相談もナシに勝手なことばっかり

ぎゅっ

なのに

なのに

バカだバカだ

俺はバカだ

バカでちょろすぎて　自分でも腹が立つけど

リッ
リムル

今度は
どうした

もう許してる

くそっ
くそっ

づっ

づうっ

誰の特別にもなれなかった

誰も特別にできなかった俺を

ヴェルドラがはじめて
特別にしてくれた

この特別をなくしたくないんだ　どうしても

バサッ

「つまりヴェルドラみたいな
トラブルメイカーのオッサンに
付き合えるの俺だけって
ことじゃん」

っっ
つま、

りっ!!

「もう仕方ないな！」

どっ

しっ しかた ないっなっ!!

どっ

どっ

おっ お…っ 俺ッ

しかっ いない…っ んだ、からっ!!

ああ!!

そう言う ことだな!!

うむ!! そうだな リムル!!

…っ

ぷち…。

シズさん
ごめん

全部ぜんぶ
俺のわがままだ
でも手放せない

…あ…のさ

子供……な
さっきも
言ってたけど

気にしてるだろ

配下たちはさ

ヴェルドラが
魔力を与えて
俺が名付けて

もう俺たちの子
みたいなもんじゃないか
って思うんだ

だからさ

もうこれ以上は
いいかなって

ひょいっ
わっ
なるほどそうだな
違いない
なし崩しでも勢いでもないキス初めてじゃね？

ふ
ちゅっ
ちゅっ
ちょっ
ばっ
ヴェルッ
こら…っ！
ぷっ
ふ!!
っ
何故だ
リムル
愛を確かめ
合わんのか!?
愛…
って…
ぷにっ
ガチ
ガチ
もう駄目っ
だって…っ
しごとっ
あるんだよっ
ぷに
ぷに
ふ…っ
またヴェルドラのを
挿入られたら…っ
ぷに
ん
ぷにょ

あ…っ!!
ビクッ
リムルのここはかわいいな
軽く触っただけですぐに固くなる
きゅっ
ぴくっ
ぴん
ぱ…っ
そん…っ
あっ
あっ
ビクッ
ぶるぶる
そんなのあたり前だと言いたい
もみっ
童貞にはわからんクソッ
Aとかエロマンガだとその答だけど現実でみんなそうなのか自信がない
もみ
すりっ
ごまかした
リムルの唇柔らかくてこれは我も好きだ
ああ口を吸うのもよいな
ぐいっ

ぷはっ
はぁっ
はっ
ぐぐぐ…
んッ?!
んんっ
ふっぅ〜
んむっ
ふっ
ん…んっ
どろ…
あっ
ミミっ
ふっ
ぷにぷにっ
ちゅ
ふっ
んっ…
ちゅっ
くちゅ
ちゅっ
は
ちゅくっ
ちゅっ
ふ
んぅ…っ
〜っ
なっ
あと一回だけだ
リムルせっくすしたい
今度は
外に出すから
外にって…
それ
意味あるのか?

だって我の精液の魔素でリムルの万能細胞が酔っ払って立てなくなっていたであろう

そもそも竜種のエネルギーが含まれるものは弱きものには毒でな

採取した精液を解析してリムルならば問題ないと判断しとったのだが…

ベロッ

主様はヴェルドラの魔素だまりから発生した為ヴェルドラの因子を保有しています

そのため竜の因子を含有する精液を膣内射精されても酩酊する以上のダメージはありませんでした

イキすぎて腰が立たなくなったんじゃなくて中に出されたせいだったのかよ

なななんだどうりで…

ヴェルドラだって初めてだったのにあんな…あんな…

おかしいと思った!!!!!

ていうかラファさんに膣内射精されてしまった言わせてしまった

さっきも思ってたよりいっぱい膣に出しちゃったから

なぜ…

リムルが心配だから念のためな

あ……っ

ぴくぴく

ぴくぴく

……っ
ちゅ
ちゅう
ふ…
う
ちゅっ
あっ
ふにゃ
ぷにゃっ
ぷん
や…
さわ
さわ
ぷん…
これ…っ
挿れられても
膣に出されなきゃ…
ちゅっ
ちゅっ
ラ
ん…
ぐちゅ
くりっ
ふっ
ビーン
ビーン
さっきみたいに
なったりしない
んだよな…？
あ…
ビクッ
ひゃっ
ちょっ
うごかさ…っ
あ
や
しゃ…
仕事…っ！
あるから!!
それにっ
もうっそろそろ
朝じゃん?!
やっぱ
駄目ッ
この状態で
見殺しに
する気か!?
なんたる非道!!!

もう本当行かないと仕事なんだよっ!!

ワッ!!?

かぷっ

リムル様人のこころはないのか

あいしてくれるスライムなんていない

びくっ

がばっ

リムルだって本当はしたいのであろう!?

がくん

ぶんぶん

あっ

ちっちがっ

リムルだって足をもぞもぞしとる癖に

ばっ

ひぃっあ

だっひぁっ

あぁっ

やめっ

にゅるっ

にゅるっ

トロォ…♥

見よっこんなにぬるぬるになっとるではないか

ムリュッ

〜〜〜〜ッッ

はぁ…っ
んっ
ちゅ
ちゅ
ふ
ふっ
ん…っ
ぷく
ぷっ
ぷっ
ぷっ

褥で
他の男の名を出して
はしゃぐな
んん…っ
ふぅんっ
ラミっ
ぎゅっ
あ…っ
ぷしゅあっ
ビクッ
ひぃ…ん
また
出てきたな
ぺろぉ…
ゆっ
あミっ
あっ
あぁミっ
では
一回だからなっ
どくん。
じゅるっ
くりっ
くりゅっ
じゅるる
ちょっ
ゾッ

はっ
ちろ
ちろ
ぢゅっ
ぢゅるるるっ
ぢゅっ
ちょ…っ
くにっ
あっ
やめ…っ
ふ…っ
ぢゅっ
ぢゅぱっ
ぢゅっ
ぢゅっ
ぢゅ

次があるんだ
ヴェルドラ様…
はぁ
は
ヴェルドラに触られて
気持ちよくなっても
あっゆび…っ
ぞくっ
くっ
んんっ
うっ
びくっ
あ♡
ちゃこ
ちゃぷっ
やぁっ
あっあ…っ
大丈夫
なんだ……
リムルよ
ぴく…

母乳出すのは嫌でも
そっちをしゃぶるのは
いいのか…？
ふるひゃいっ
ピクンッ
ぺろ…
無理だよ
気持ちよくとか
ワケわかんなく
させられるの
ぅあ…ッ
ア
やられるよりやる方がマシ
リッ…リムル何だどうした
うるせーッ オレの番なんだよ
恥ずかしくて死ぬ
ひっくり返しました
ビクッ
ぱふっ
リム…ッ
は…ッ
お
れろ
くりゅっ くりゅっ
ビクッ
ビクッ
やっぱデカイなくそう…ッ
おお…っ

ジワァ
ハッ
りゅっ
アッ
それでちんこ舐めてるってなんか狂ってる気がするけど……
ちゅ…っ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ヴェルドラのガマン汁……♡
ウ…ッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ペロ
ペロ
ペロ
ペロ
ペロ
ペロ
にゅこっ
にゅこっ
ムーム…ルッ
ニニッ
アァ…ッ
ニニにいっぱい…♡
ビクッ
ふにっ♡
ふにっ
はぁっ♡
無理するでないリムル
精液はマズかったではないか
それに竜の因子が口に入ってては…
はっ
はっ
はみゅっ♡
な…ッアッ

グッ
ビクウッ
ドッアァ…ッ
アッ
ちゅぽっ
ちゅぽっ
ちゅぽっ
ちゅぽっ
ちゅぽっ
アッ
ツァ
ぷるっ
リュ
ぷゅっ
ブリリュム
ぷるっ
もっと
もっと
ぷるるっ
まっアッ
じゅぷ
リムッ
うっ
アッ
ぐぷ♡
で出て…ッ!!
ガクッ
ガクッ
ガクッ
ガクッ
ま…ッ
ブリュアッ
ガポッ♡
ガポッ
ガポッ
やめ…ッ
ぐぅ

…っ リムッル!!
ジクッ
ジク
ギッオオッ
イク…ッ!!
ぶるるっ
がしっ
んっ
んもっ
んんっ
んッ
ぶるるっ
ぶるるっ
ぴしゃッ
ぴしゃっ
ぴしゃっ
ぴしゃっ

我が射精しちゃったからこれで終わりとはいわせんぞ
ギクッ
何を動揺しとるのだっ
リムルごまかすでないっ
我はリムルと一緒に気持ちよくなりたいのだっ
ぐいっ
はあっ
あ…っ
はあ
ちゅぷ…
ん…っ
ふぁ…
ちゅ…る
ちゅ。
ちゅと
ん…っ
ふ
ちゅ…。
ん…。
はン
ちゅ…。
なぁ…
ん…っ。ぴと。
ドクン。
ドクン。
シャッ
ギーロンッ
かぁぁぁ
さっき出したばっかの筈なのになんでこんなにビンビンなんだよぉ…

ピンッ
ポタ
ハッ
ハッ
ハッ
ハッ
ビクンッ
なあリムル待ちきれぬ
リムルのここを何度もかき回して
我の魔羅でリムルが乱れるのが見たいのだ
早く…っリムルの膣に挿れたい…っ
ぶるんっ
ドクドク
わっかったっからっ
もぉっいいから…っ!!
ふるふる
はやく挿れろよぉ…っ
しのはぁ…♡

まったく リムルは 焦らしすぎだぞ
ぶーっ
うるさい ばか…っ
ぎゃっ
はアァァ…ッ
ビクッ
ぶるっ
ビクッ
あ…っ！
ドキ
ドキ
ドキ
くちゅっ
ビクッ
はぁッ
ぶるるるるるっ
ツッ
ハッ
ガクッ
ガクッ
フッ
ひ…っう
ハッ
ハッ
ハッ
ビックッ
うご…っ くなあぁっ
はッあぁ…っ
はぁ
…ッ やはり狭い…
リムル 大丈夫か
みぢ
みちっ
はッ

威勢よく挿れろと言ったくせにこのように身体を強張らせて……
は…ッ
なぁ…
はぁ…っ
ホレここに我の魔羅が入っているのがわかるか？
ガク
ガク
ギチッ
ギチッ
さっきもこんな感じだったのであろうか…
夢中でわからん…
はっ
さわるっなあ…っ
あ…あ
ひっ
あ…ッ
ビクッ
気を紛らわすには……
ひっ
ひっ
あ
あ…っ
んっ
ここ好きであろう？リムル
ふ…っ
こね
こね
こね
こね
ふうっ
ぴくっ
ん…っ
そこっ
やぁっ
はぁっ
やぁあっ
くりっ
ぷしっ

はっ
はぁ
んんっ
なんか…っ
コリ
クニュ
あ…
あぁ…っ
じわぁ
もどかしい…っ
なんだ？
自分で腰を使って
いるのか？
ハッ
我に動いて
欲しいなら言えば
いいではないか
フッ
ぼっ
ん…
ゆさ
パキュ
パキュ
ゆさ
ふっ
ゆさっ
一人遊びとは
つれないな
んんっ
はぁ…
はぁ…
んっ
やっ
ぬくなぁ…っ
ぬるー
ぷっ
うぁ…っ
はぁんっ
あっ
おく…っ
ぷちゅんっ

待ちかねたぞ…っ
ぬ!
ぬぷ
ぬぷっ
あッ
あぁ
ぎッ
そん…っ
はッ
あっ
あっ
ま…っ
はぁん
はぁっん
ぎッ
ぎッ
ぎッ

やぁ
あっ
あっ
はぁ
あっ
あうっ
ビクッ
ビクッ
ぶしゅっ
きゃうぅーんっ
はー
ぽた
ぽた
はー
はぁー
ビクッ
ビクッ
はぁ
あれ…
おれ…
イッた…?
はぁ
ガク
ガクッ
なんで…?
膣に出されてないのに…
じゅぷぷぷんっ
あ…

クハハハッ
ペロッ
まったく竜種たる我の顔に粗相をするなど…っ
リムルくらいのっものだぞ!?
ぐっ
ひ…っ!! ごめ…っ
はひ…ッ
ひ
ゾクッ
ゾクッ
はッ
いち…ばんっ
おくき…っ
ガクッ
は…っ
ガク
すっぽぽ!
ふ!!
あ…
ぶく
ぶく
は…っ
ぶぶッ
よいかっ聞くのだリムルッ!!

はっ
リムルは我の盟友だからな
ちゅ〜〜♡
あッ
ふぁっ れろッ
ん…っ んむぅ
れろぉ…
れろ
んんっ
ぱちゃっ
ぱちゃん
ぱちゃ
あっ
リムルだけだぞ許すのは…ッ
ぢゅ
ぢゅぢゅ
ぢゅぢゅ
あッ
あッ
あッ
あッ
あッ
あッ
あッ
ぢゅぢゅ
ぢゅぢゅ
ぢゅぢゅ

はぁ…ん
ならば…っ
ぎゅッ
はぁッ
ぼろ
ぼろ
ぼろ

あぁ～～あ～～ッ♡
あぁ…ん♡
きゅうう～～ん♡
ビュクッ
うっ…グッ
アッ
にゅこっ
にゅこっ
ぴくっ
はぁっ
でるッ
射精すぞッ!!
ビュルルルル～～～
ぴくんっ
ぴゅぁ!!
あぁっ
お…ッ
おおっ
……ッッ
ぴゅくっ
はぁ～～ッ
はぁ～～ッ
ぷぅ～～ッ
ガクッ
ビクッ
ビクッ
はぁ～～ッ
ガクッ
ビクッ
ビクッ
ビ

すまぬ
調節がうまくいかぬな…
気持ちがいいといっぱい出てしまうようだ
ポイ
あ…
むぐ…
どうした？
……っ
な…
リムル!?
ストン

なっ…!?
はぁっ
どく
はぁっ
ちゅるーっ
びくんっ
ずぁ…ッ
ラッ
レロ…
ビッ
リム、ッルなにを…っ!?
ん…
はぁっ
ちゅこ
ちゅこ
オ…ッ
もっと♡
ア…
コロ
コロ
もっとほしい…♡
ブァ…ッオッ
ビクッ
ビクッ
ぢゅぽっ
ちゅぱっ
ぢゅっ
ぢゅぽっ
リ、ちょっ…
ふおおっ!!
ぢゅぽ
はふっ
ッアッ
ア…ッ
んっ
んんっ

リムルッ ちょっと待てっ
どうした?!
ふぇ…っ!?
ぴくっ
仕事に… 行くのでは なかったのか?
あ…っ!?!?
ばっ
いやいや なん…ッ でッ
ごめ……っっ
なんか わかんないけど す…すごく 欲しくて…っ
まっ…てっ
ぱた

我の精液がそんなに気に入ったのか？
ファーッハッハッハッ
リムルの本性はスライムだからな
より魔素の濃いものを摂食しようとするのは本能だから気にするな
ナデナデ
かあああーーーっ
性なのは仕方ないであろう!!
仕方ないが…っ!!
ぐぅ…っ
俺ッ!! 仕事いく!!
からっ!!!
ダッ
がしっ
待てリムル
……っ
ぬぬぬ
ぬりゅっ
あのような事をされては……ッ

ぬぷぷぷ
あっ
はッあぁ…
あっ
ひ…っ
グリグリッ♡
はッあ…
は…ッうぁあッ
ぐりっ
ぐりっ
ぱんぱんぱんぱんぱんぱんぱんぱん
あっ
あぁっ
あぁっ
本当に一回で終わりにするつもりッ
リムルが忙しいのは解っておったから!!
であったのにっ!!
すっ
はぁ…っ
はぁうッ
リムル…ッ
後で怒るなよッ!!
じゅぷ
じゅぷ
じゅぷ

そこ押さえな…っ
やぁっ
おなかっひびくからぁ
リムル
ここを弄るのも好きだな？
ビクッ
ビクンッ
きゅんっ
きゅうんっ
胎が痙攣しておる…っ

やはり悦いのか
ぬぽんっ
わかってきたぞ…っ!!
いまだめぇ…っ
はっ
はぁっ
リムルの膣が…っ
我の魔羅にからみついて…うねっておるっ
ひぅぅ…ん
あ…
お…おっ
リムルが気持ちよくなると我ももっと気持ちよくなるのだな…っ!!
ぱぁんッ
あ…ぁ
ぬぬぬぬ〜〜
あ…ん
ドチュッ
ひぐ…っ
はひっ
リムルどうするのが悦いのだん?
あ…っ
わかんな…っ
ぱ…っ
ぐりぐり
ぐぐ…
ぁぁっ
ヌコ
ヌコ
ぶぶぶ
びくッ

我に教えよ
低音
リムル
ぐッ
ふっ
びくッ
は
あ…っ
…っ
ふっ
あぁあ…んっ♥
ぐぷ
ぎゅうっ…ん
ピンッ
はッ
はぁっ
今イったな？
何故だ？
ひぁ…っ
ひゃっ…っ
べるなぁ…っ
ぁあっ
ぐッ
ぐッ
リムル？
…ッ
やぁ…っ
ぁあんッ
ぎゅうっ
ぐッ
ぎゅんっ
ぐプッ♥
我の声でも
感じるとは…
クハハハッ
愛いなリムル
声でも
よいのか!?
ふッ
ちが…っ!!
ぁあ…
めろめろ♥
ガク
ガクッ

ふぅんっ
ちゅぱっ
ちゅぅ
くちっ
んんっ♡
ちゅっ
ふぅあ
んぅっ♡
ナカに
だ
射精されてないのに
なんでこんなに…っ
はぁんっ♡
ひぃぃぃぐぅぅっ♡
ゼクッ
めるるるる…っ
ああぁ…っ♡
ギュッ
ギュッ
ギュッ
あっん
奥までしびれて
はぁ
ごぇ
ヴェルドラでいっぱいで♪
あ…っ
イッちゃ
どちゅっ
ごぇっ
あぁっ
どちゅんっ
どちゅっ
どちゅっ
なにも考えられない
ギュッ
ギュッ
ギュッ

リムル…ッ
リムルっ!!
またぁっ
ああッ
愛いぞ
ぐぇるぅ
いくっいくぅッ
あッ
愛い…!!
ビクンッ
よいぞッ
我の魔羅で
イけッッ!!
射で精る…ッ
ばっ
はーっ
はーっ
はーっ
ぴゅるるるる
ぴゅるるるる
ぴゅるるるる
ぴゅるるるる
ピシャッ
ピシャッ
ガクッ
ガクッ
にゃにゃ

ふき
ふき
……っ
ナカに欲しいのに……っ
きゅう…っ
まだ…っ欲しいのか？
ぴくっ
ちゅっ
ちゅっ
ちゅっ
仕事にいかずともよいのか？
さす
さす…
だだって…っ
クアハハハハハハ
全くリムルはいやらしくて欲張りだな
カアアッ
よい
ちゅっ
だって我はリムルの盟友だから、な
かいかいすぎた。

だがよいかリムル
我がいっぱいしてやるから
我以外の者に精を強請ったら許さんぞ…っ!!
わかってるから…っはやくぅ
あっあ…ぁんぁぁっ
はぁあんっ
じゅぷぷぷっ
おくまで…いぱ…ッ
おれもぉ…っ

はぁっ
ヴェルドラといっぱいっ
いっぱいしたい…っ
ぐぷぷっ
おお…っ
リムルッ
リムル
はぁ…ん
あ…ん
ちゅぷっ
ちゅぷっ
はっ
ぐぷんっ
あぁっ♡
あっ♡
うぇりゅっ
はっ
んっ
あっひ♡
きもちいっ♡
あっ♡
ぴっ
たんっ
たんっ
たちゅ
あっ♡
たちゅっ
たんっ
きゅんっ

なあ リムル 我も…
だめぇっ
おれが…ぁっ うごくからぁっ
おれも ゔぇるどら イかせた…っ
あっ
ぢゅぽっ
ぢゅぽっ
ぢゅぽっ
はぁッ
はひっ
あぁっ
ヘコ
ヘコ
ガクッ
ガクッ
ゔぇるどらの おちんちん
きもちい よぉ…っ
イッ
ゔぅ
はっ
はっ
はぁっ
く…ッ
はっ
ぐんッ
ぁ…
えっ だ…っ
うごいちゃ…!!
ッッッッッッ!?
ビクビク
ビクビク

ふか…っ!!
ずぅぅんっ♡
はぁっ
なん…っ
ビクッ
はぁっ
でぇっ…
ビクッ
はぁっ
ぐっ
動くぞ
だっめっ
あぁっ
うごいちゃ…っ
あぁっ
やらぁっ
またぁ
あぁっ
あぁ
はッ
あっ
ひっ
あッ
あぁッ
ぐぽッ
ぐぽッ
ぐぽッ
ぐぽッ♡
はぁッ
やぁッ
ちゃ…ッ
ぐぽ…っ
ぎッ
ぎッ
ぎッ
ぎッ
やぁぁッ
あぅッ
はげしッ

ビクビクッ
ぷしゃあっ
ビクンッ
すごいな
抜けてしまったぞ
は〜
ぴく
くぱぁ
ばかぁ…
ふぁれが…っ
ひかせったかったぁのに…っ
ポカ
ポカ
だってリムルが煽るから
くちゅ
くちゅ
ぐちゅ
ぐちゅ
あんっ
あぁ
ガク
ガクッ
はぁんっ
だ、め…っ
なんかいもっいって、る…っからぁ…
もっむりぃ…っ

だめだっ
は…っ
おくぅ…っ
みちちっ
我をイカせてくれるのだろう…っ
ぐんん…っ
はぁ…あっ
リムルにしかできんのだぞ…!?
はッん
きゅん
ゾク
ゾク
きゅん
それっわぁ…っ
きゅうう
ぅぅぅぅ
ぁ…っ
フッフッ
リムル…っ
フッ
ぅぇりゅ…っ
ああ…っ
ギシ…

ぐぢゅっ
ぐぢゅっ
おぉぉぉ
あぁっ
ぎゅっ
ぐぢゅっ
ぐぢゅっ
ぎゅっ
ぐぢゅっ
ぐぢゅっ
ぐぢ

ぎッ
ぎッ
ぎッ

ああ…っ
ぶちゅ
ああっ!!
はぁ、
ん、
ふ…
知っておるっ
知っておるぞ

はぁ…ッ
フ…ッ
あっあぁ…っ
フウッ
コラ
そんなに…っ
締めっるな
ギュウ
きゅうううんっ
はぁ…っ
うぐ…っ
ビクッ
リ…ムルッ
うぁ…っ
もっ出るッ
ぶるるる…っ
グッ
リムルに
何かッ
あったら……ッ
だいッ
アァ…ッ
このっまま
だし、て…っ!!
駄目だッ
オ…ッ
じょぶっ
だからぁッ
がしっ

うぇりゅのおっ おちんぽ みゆくぅ
ふぉれも
はっ
はぁっ
はッ
のみ…ったいっ よぉっ
おねが…っ
ッッ!!
ぎりッ
くちゅっ
はッ
このままっ
ひぁ
すぅんっ
じぃぃ…ん。
あっ
バチュッ
あぁッ
バチュッ
バチュッ
ぐぃ
ぐしゅ
射精す…っ からなっ
あぁ…ッ♡
バチュッ
ぐしゅ
あぁッ
バチュッ

ぐぇっぷ
ぐぇっぷ
ぐぇっぷ

あっ♡あ、あ～～♡
ビクッ
ビクッ
あ～～♡
あ～～♡
あ～～♡
ビクッ
ぐりゅッ
ぐりゅッ
まっへ
ひってる…っ
からぁッ
ピッ
ふーふ
ふーふ
あぅ♡
はぁ～♡
ぷくっ
ぷくっ
ぷくっ

はッ
はッ
はッ
…っ
もう
煽るな…っ
ドサッ
そ…っ
ぎゅっ

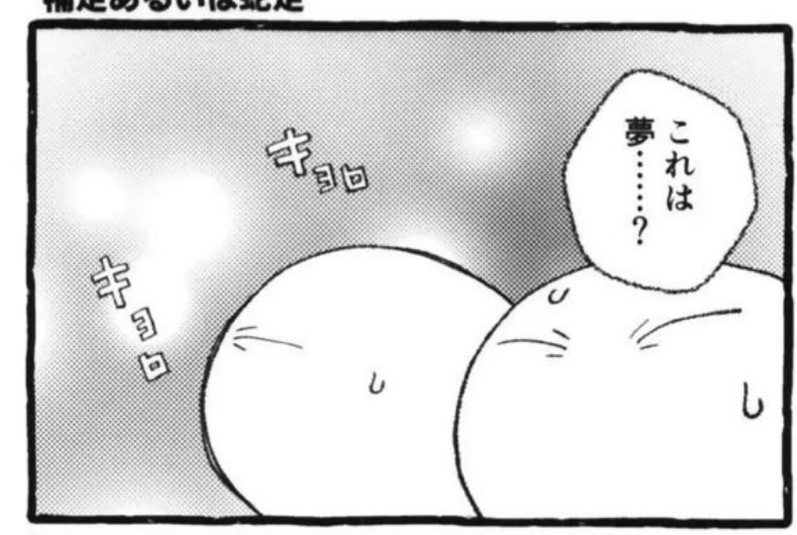
ヴェルドラ……
おれの…
ヴェルドラ……
ああ
お前のものだ
まるで
心ごと
蕩け合うような

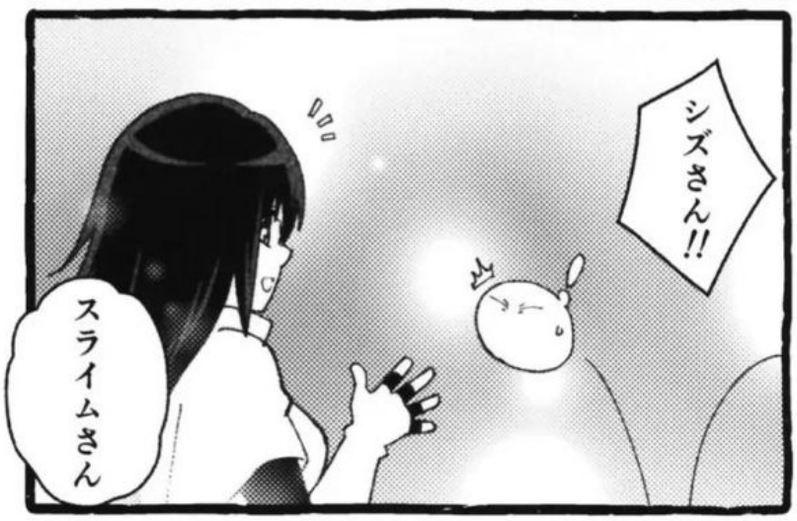
我が兄
ヴェルダナーヴァよ
貴方が
見たのはこれなのか
融け合った末に
新たな知らない
物語が生まれる
ただ己の
リムルの消滅が
恐ろしいとしか
思わなかったというのに
すー
すー
サラ…

今はそれが
少し見たくなっている

……困った

補足あるいは蛇足

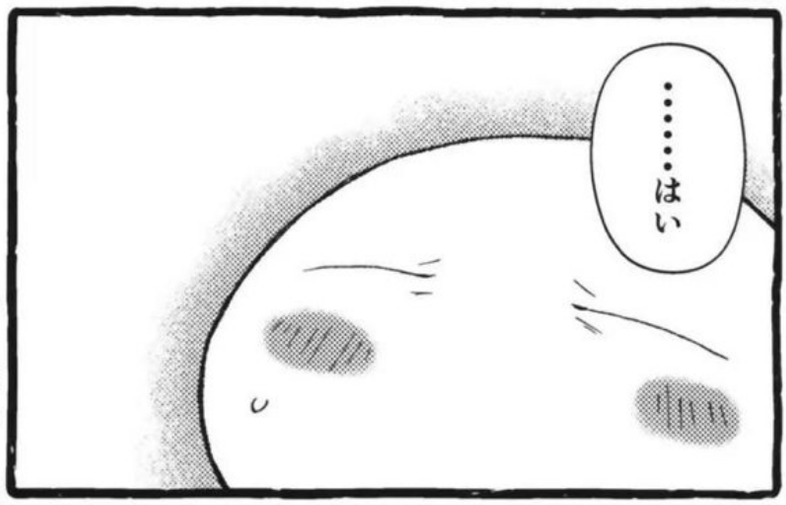




あとがき

ここまで読んでくださってありがとうございます！前後編合わせたあとがきです。後編の発行まで結局一年空いてしまいましたので、完走してくださったおおらかな方がどれくらいいらしたのかわかりませんが、心からの感謝申し上げます。おかげさまで搾精スライムが覚醒しました。栄養ドリンク感覚でヴェルドラさんにミルクおねだりするようになる頃にはこのリムル様も竜種亜種に進化できるようになっていると思われます。おっぱいミルクから始まりおちんぽミルクで終わりましたヴェルリム家族計画、いかがでしたでしょうか。何聞いてんでしょうね。すいません。ちなみに最後のヴェルドラさん「困った」はいつかは仕込んでもいいかもってくらいで即孕ませたいと積極的に困ってはないです。まだまだ二人きりを楽しみたい。だって我の方がリムルの一番なのだからね。

■まとめ■
リムル様が勝手にカリス君に嫉妬して独り相撲に勝手に負けてぐずぐずしてるヴェルリム痴話喧嘩、一言で済むようなあらすじなのにこれ本当に２年かけるようなネタかな……と製作中何度も逡巡しましたが、あのリムル様が素直になるには100ページ以上必要だったとすると解釈一致してしまうんだなぁ。そのせいでヴェルドラさんかわいそう！！って方々から言われてしまいましたが。すまんな攻の人が苦労するの性癖なんだよ。同じ趣味のやつだけついてこいよ…！！！という気持ちで描きました。あとがきまで読んでくれてるあなたはきっと同志に違いない。好きッッッ！！！



■シズさんのこと■
シズさんのガワはあくまで借りものであって自分のものではない。その姿のまま恋をすることは彼女を穢すのと同じだと考えるのがデフォルトのリムル様。それでも恋はエゴを貫き通さないとできない。リムル様そして三上君に必要だったのはそういった気持ちだったんじゃないかと思っています。その呵責を抱えながらこのリムル様は人の身体でもヴェルドラさんに愛されたいを選んでしまったのです。
ではそのことに対してシズさん的にはどうかがこの蛇足漫画です。かなり転スラ日記に影響されています。挿絵で三つ編みつまんでたりえっちな格好に怒ってたシズさんがお母さんのようだったので、リムル様に対しても娘みたいな対応になりました。孫発言はそのためです。

■ヴェルドラさんのこと■
「鱗やるから～」の下りはまおりゅうのお正月イベントストーリーより。お正月の神事のためリムル様が鱗を貰いに行った際「ペリッとする時痛い」って発言があったんですよ。
ちょくちょく聞き逃せない情報流出させてくるよねまおりゅう君。
ヴェルドラさんのただ天真爛漫なだけではない邪竜な側面、世界でたった一人の盟友をしれっと囲い込んでく邪竜な側面も描けたらと思ってたんですが相手がめんどくさすぎて可哀想な側面の方が圧倒的でしたね本編。
すまんな性癖なんだよ。大事なことなので二回言いました。

■表紙■
本作のヴェルリム家族計画は「これ以上はいい」ですが、「でもいつかは増えてもいいかも」って少しだけヴェルドラさんの気が変わっています。表紙はその増えちゃったいつかのどこかの世界線のイメージです。

転生したらスライムだった件UNOFFICIAL FANBOOK
おっぱいミルクから始まる暴風竜さまと魔王さまの家族計画

発行日：2025年8月8日
発行：そぼろ丼／そぼろ
Mail : natto0702@chrysanthemum-inn.uh-oh.jp
X(旧Twitter)：@soboro_QuQu
印刷：株式会社栄光 様
表紙デザイン：はるのおどりこデザイン/いとう 様
X(旧twitter):@harunoodoriko

※この本は個人的に作られた非公式な同人誌です。
原作者様・出版社・および関連会社等すべての版元とは一切関係ありません。
不要の際は燃えるゴミか中古同人誌専門店など、一般の方の目に触れぬよう
ご配慮をお願いします。

《禁》
18歳未満の閲覧
ネットオークション、フリマアプリへの出品
SNS等への無断転載

That Time I Got ReinCarnated
as a Slime FANBOOK

おっぱいミルクから始まる暴風竜さまとウェルドラ×リムル♀魔王さまの家族計画

Presented by Soborodon